

2026年（令和8年）6月校長メッセージ「都立中高一貫教育校の選び方」

両国では、今年度小学生とその保護者の方を対象とした学校見学会や授業公開を、5月から開始しました。これは早い時期から中学受験を検討している小学生の保護者の皆様のニーズにお応えするため、中学受験をお考えの方に両国の教育活動を見ていただき、学校選びの参考にしていただこうと考えているからです。このように年度の早い時期から学校見学会や授業公開を開催する学校は両国だけでなく、多くの都立、私立の中高一貫教育校が取り組むようになってきました。また、6月7日（日）にはベルサール新宿グランドという立派な施設をお借りして、都立中学校等合同説明会を開催します。お子様の中学受験をお考えの方はぜひご参加いただきたいと思います。

さて、学校見学会や授業公開でご来校いただいた方からよく質問いただくのは、「都立中高一貫教育校のよいところ、優れている点はどこですか」「都立の中でも、どの学校を選んだらよいか分からないので教えてください」といった学校選びに関わる内容です。都立等中高一貫教育校は千代田区立九段中等教育学校を含めて11校あって、それぞれが独自の特色ある教育活動を行っています。授業のスタイルや学校行事、海外交流、探究活動のどれ一つとっても同じではないので、小学生とその保護者の方々が、学校選びに迷うのは当然でしょう。

学校説明会等で申し上げてきたように、私は4校の都立中高一貫教育校の管理職を務めてきました（白鷗の副校長、および桜修館、小石川、両国の校長）。その経験から申し上げますと、都立中高一貫教育校の共通しているよいところを一点あげるとすれば、どこの都立等中高一貫教育校も、「入学してきた生徒たちに、どこの学校よりも優れた教育環境と、他ではできない体験を提供するために、日夜努力を続けている」点であるように思います。

都立等中高一貫教育校では授業を中心に、進んだ英語教育・理数教育、少人数教育、習熟度学級、探究活動、国際理解教育、学校行事、宿泊行事、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、部活動、道徳、生活指導、地域交流、キャリア教育、進学指導、食育など、子供たちを社会的に自立しリーダーとなり得る人に育てるために、きわめて多岐に渡って系統的で横断的な教育を重層的に行っています。それぞれの教育活動が単独で存在するのではなく、授業で学んだことを探究活動で生かしたり、地域交流、職場体験の中での経験を進路選択で生かしたりして、より深い学びにつながるように、子供が将来を決めていく際の有効な検討材料となるように工夫しています。こうした重層的な教育活動をどのようにデザインし、生徒たちの6年間の学びを構成するか、より高い教育効果を上げて進路の実現に結びつけていくか、都立等中高一貫教育校はどこの学校も知恵を絞り、新しい試みに着手し、さらなる高みを目指して努力し続ける学校だと言えます。

両国についていえば、両国には旧制府立三中として創立した時以来の「自律自修」という校訓があり、その校訓の下、現在では授業第一主義と教育の四本柱（国際理解教育、子

志（こころざし）学、言語活動、理数教育）による「両国メソッド」によって、6年間を見通した教育活動が行われていますが、今年から来年にかけてさらに教育課程の大幅な改定による45分時間7時間授業への移行、「志学」をキャリア教育と探究活動を連動させてより高度な取組へ進化、海外研修の見直し（中学3年生でアメリカ、高校2年生でマレーシア）を実施するとともに、東京都からIBLハイスクール、理数研究拠点校の指定を受けるといった新しい試みを実施します。両国は創立125年の歴史を有しますが、「伝統とはとまらないこと、変わり続けること」であることを実践し、学校として成長を続けています。こうした努力は両国だけではなく、都立等中高一貫教育校全校で言えることで、こうした努力を続けるところが都立等中高一貫教育校の優れている点です。

そして、もう一つ都立等中高一貫教育校が優れているところをあげるとすれば、それぞれの学校が「子供が成長する物語」をもって教育活動をおこなっているところと私は考えています。

「子供が成長する物語」という言い方はあまり馴染みがない言い方です。この「子供が成長する物語」は、学校経営者が意図的につくり出せるものではなく、生徒たちが学校生活を送る中で紡ぎ出される夢や希望、教員一人一人が生徒を大事にして愛する気持ち、ただ大事にするだけではなく、しっかり大人に鍛え上げようとする先生たちの決意、卒業生が現役の生徒たちによりよい将来に進むことができるように支援する気持ちなど、いろいろな思いが何十年も繰り返されることを背景として、でき上っていきうように感じます。

両国だけでなく、都立等中高一貫教育校は戦前から続く都立の名門校を母体校として生まれました。一番古い学校は白鷗で、明治21年（1888年）に府立高等女学校として創立し創立140年を迎えようとしています。長い歴史をもつ学校はいろいろな苦難を乗り越え、多くの卒業生の学校に対する思いを刻み込みながら、学校として成長してきています。そのプロセスの中で、その学校に通う生徒たちの成長にとって一番有益で、かつ生徒たちにとっても興味・関心の高い教育活動を選び取りながら現在にいたっています。学校独自の授業スタイルで勉強をすること、文化祭や体育祭の学校行事で生徒たちが役割や責任を担い、主体性を成長させること、部活動で仲間と協力してより高い目標に向けて努力を続けること、宿泊行事の訪問地で級友と寝食を共にすることなどが積み重なっていくこと、どの学年のどの時期に、どんなことを生徒が体験していくか、体験の中で生徒が自分を見つめ、自分が自分であることを獲得していく、入学から卒業までの6年間の中で、一人前の人間となって次の人生のステップに進んでいく、そのプロセスが学校のもつ「子供が成長する物語」です。都立等中高一貫教育校の学校として優れているところは、この「子供が成長する物語」を、それぞれの学校が独自の物語として有し、入学した子供たちがそれぞれの学校の物語を体験することで、立派な人間に育っていく点です。

この「子供が成長する物語」は、学校内では暗黙知になっていることが多く、学校にとってあまりに当たり前のことになっているため、小学生とその保護者の皆様に分かりやすく説明することができないという問題があります。「子供が成長する物語」の対極にあるの

が、東大をはじめとする難関大学合格実績の数字です。学校のよしあしを東大合格者数で示す指標は非常に分かりやすいし、単一指標による順位付けが明確になるので、そのことを目安にして学校選びをすることは容易です。そのことを否定はしませんが、私としてはそれだけで学校選びをするのはおすすめしません。

学校を選ぶときにどんな視点で学校選びをすればよいか。上記の都立等中高一貫教育校の優れている2点から考えていただき、校長をはじめとする学校の教職員が学校説明の中で、その学校が生徒の成長にとってどんな方法で取り組み、工夫をしているか、その工夫の方向が子供の性格に合致しているかという視点が大事ではないかと思います。学校を訪問いただき、授業の中での生徒の様子、文化祭等での生徒の活躍、部活動体験等での生徒の表情を実際に見ていただいて、その学校の生徒たちがどんなに生き生きと学校生活を送り、成長しているかが感じられるかが学校選びのポイントとなるでしょう。学校見学に行ったときに、可能であれば生徒から直接学校の様子を聞いてみるのもよいと思います。

しかしながら、お子さんと学校見学や授業公開に参加して、理屈抜きで子供がこの学校に入学したいと言ったならば、きっとそれはその子供にとっての学校選びの最適解だと思います。その学校に通学し、6年間過ごすのは子供である、ということを決して忘れてはなりません。その学校が母校となり同窓生となって一生の仲間として友人として、チームとして助け合うのは子供であって、けっして親ではありません。

昨今は中学受験ウェブの中に受験日程や入学に必要なお金の振り込み期日を分かりやすく明記してあったり、繰り上げ合格状況を情報提供していたりするものもあります。こうした受験情報から子供の受験する学校のことをあまり知らないで、日程調整するために子供の受験校を決める方もいらっしゃるように感じますが、こうした中学受験のための受験日程を詰め込むようなやり方が子供にとってよいとは思えません。

今回の校長メッセージは、学校選びに関して私の考えをまとめさせていただきました。学校を選ぶポイントはいくつもありますので、小学校の保護者の皆様ご自身でお子様と一緒にいくつかの学校を見ていただきながら、どのポイントを優先して学校を選ぶのか、その学校に入学するためにどんな勉強方法が最適なのかをお考えいただければよいかと思います。この文章が学校選びの参考になれば幸いです。こうしたことを踏まえつつ、両国の授業公開や学校見学にご来校いただきたくお待ち申し上げます。

過去の校長メッセージ

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 2026年5月校長メッセージ | 「おいしい甘酒の作り方」 |
| 2026年4月校長メッセージ | 「Memory of Mankind」 |
| 2026年3月校長メッセージ | 「時間について考えたこと」 |
| 2026年2月校長メッセージ | 「キャリア教育優良校文部科学大臣表彰受賞について」 |
| 2026年1月校長メッセージ | 「ガザのお父さんからの日本の中高生へのメッセージ」 |
| 2025年12月校長メッセージ | 「唐獅子さん」 |

2025年11月校長メッセージ	「カーボンリサイクル」
2025年10月校長メッセージ	「辞書を食べる」
2025年9月校長メッセージ	「恐竜の死体が化石化するプロセス」
2025年8月校長メッセージ	「グラフを発明したのは誰か」
2025年7月校長メッセージ	「早朝の両国にいるオナガは一体どこから来るのか」
2025年6月校長メッセージ	「現代社会における霸道と王道」
2025年5月校長メッセージ	「おいしいラッシーの作り方」
2025年4月校長メッセージ	「『NEXUS 情報の人類史』を読んで考えたこと」